２０２４年３月の総評に代えて

〇林　　桂〇

●さいう●（石川県　19 歳）

ぽっぷこーんのあかるさは孤独

【評】紙コップに山盛りにされたポップコーンだろう。強い明色ではないが、それぞれが照らし合ってほの明るい存在感を示す。それに孤独が重なって見える。

●松下　誠一●（東京都　21 歳）

前職のクセで背びれが動いちゃう

【評】前職はなに？　現職はなに？　そもそも背びれがなぜある？　うーん。

●吉沢　美香●（宮城県　24 歳）

夜更かしの鏡渚の匂いして

【評】「渚の匂い」がいい。前世は人魚？

●加藤　万結子●（愛知県　44歳）

名前を持たない
労働力になり
最低賃金で
ひたすら野菜を
パックに詰める夜

【評】無名性こそ労働の本質かもしれない。誰でもできる仕事という評価が最低賃金の根拠か。でも、本当にできる仕事か。

●小川いなせ●（茨城県　21歳）

好きな寿司を頼ませてくれる父は
わたしに失望しているそうだ

【評】父は私をなんでも聞いて、甘やかして育ててくれた。しかし、人づてに聞く父の私への評価は、失望しているという。何が父の期待を裏切ったのか心当たりはない。父と娘の複雑な関係性が描かれる。

● azusa●（京都府　22歳）

数学が出来ない君と落ち合って
パフェを掬えば
海は快晴

【評】同級生だろう。数学が苦手だとわかっている。ただそれだけのことなのであろう。個性の範囲内だ。遊び仲間としては、この上ない大切な友人だ。

●杉本　太●（北海道　23歳）

椎の実を炒ってもらった
幼児期は
カレーが夜を良いものにした

【評】幼年期の大切な思い出。「椎の実を炒ってもらった」がいい。体験学習を大切にする保育園のお泊まりだろうか。

●白藤　さくら●（神奈川県　25歳）

笑いころげる
ころころがりん
透明のからだ
ころころがりん
ころころがりん

【評】以前に手遊び歌風の作品を寄せた

作者だろう。これも手遊び歌だろう。いや、手遊び歌でなくて、横になって体を転がし合う遊びかもしれない。

●常田　瑛子●（山口県　37歳）

銀色の色鉛筆で羽を描き
風の卵を温めている

【評】メルヘン創造の現場か。現場も美しい。

●藤井　柊太●（神奈川県　47歳）

夜になる理由のわからないままに
夢のみぎわに棲んでいる鹿

【評】夜になるのを学習したのはいくつだったろう。それからわかった気でいる。しかし、その理由もわからずに受け入れて生きているのが動物だろう。この鹿もしかり。

●加那屋こあ●（東京都　52歳）

三・一一おりづる瓶に詰められて

【評】東日本大震災の慰霊だろう。折り鶴を瓶に詰めて、海に流し、海難事故で亡くなった人々を弔う。

●中山　霧●（長野県　27歳）

焼く前の土器の色した肉片を
抱えて生きる　人間だから

【評】肌に包んではいるが、私たちは赤土色の肉片である。生きることのしんどさを、こんな感覚で表す。

●コアラ星人●（東京都　29歳）

職業はずっとまっすぐ立って焼く

【評】手焼き煎餅屋さん、焼き鳥屋さん・・。立ったまま焼く作業をする職業はいくつか思いつく。ただ、このような切り口で思い描くことは希だ。働くとはこういうことでもある。

●睦月　雪花●（愛知県　36歳）

にんじんの裏ごししつつ
更けていく

夜のすべてを子のためにして

【評】「夜のすべてを子のためにして」が、印象的だ。ここでは子どもだが、他人のために自分の時間を使い切る。それを耐えられないことと感じるか、充実したこととととらえるか。